

トピックス

秋冬ネギ及び春ニンジンに発生したクロバネキノコバエ科の一種ネギネクロバネキノコバエ (仮称) (*Bradysia* sp.) について

埼玉県農業技術研究センター 小 俣 良 介

はじめに

2014年10月に収穫期となった秋冬ネギ, 2015年5月には春ニンジンにおいて, 体長4mm前後のハエ目幼虫の食害による被害が相次いで確認され, 埼玉県北部の生産現場に大きな被害を及ぼしている例が確認された。そして, 問題となっている害虫が我が国ではこれまで確認されていなかった種である可能性が高いことが判明し, 2016年6月28日に埼玉県は, 「秋冬ネギ及び春ニンジンに発生したクロバネキノコバエ科の一種 (*Bradysia* sp.) について」の特殊報を発令し, 注意喚起を行ってきた (埼玉県病害虫防除所, 2016)。

さらに, 事態の重要性を鑑み, 国立研究開発法人 農研機構野菜花き研究部門が代表機関となり, 農研機構の中央農業研究センター (遺伝子解析) および農業環境変動研究センター (形態分析), 静岡大学 (キノコバエの基本生態解明) の各研究機関と埼玉県 (現地における生態, 防除技術の確立) とでプロジェクトチームが編成され, 本種の生態の解明および防除手法の開発を目指し 2016年6月末から 2017年3月までを研究期間とする緊急対応研究課題 (農食事業 28040C) が実施された。

現在, 緊急対応研究課題 (以下, 緊急課題) はほぼ終了し, 発生生態の解明, 遺伝子解析・同定手法, 緊急防除対策など所定の研究成果が得られている。各研究者らにより取りまとめが行われており, 各成果は順次, 各種学会などで発表される計画で, 本報告が掲載されるころにはいくつかが発表済みとなっているものと思われる。さらにこの原稿を執筆中の現在, 本種の対策技術マニュアルが農研機構の手により作成中である。これは主要防除薬剤が登録になりしだい速やかに順次公開ならびに改訂していく計画である。

本報告では, このネギ, ニンジンを加害して産地を脅

かしているクロバネキノコバエ科の一種について本県から発令した特殊報を中心に, 緊急課題の成果から本種の発生警戒上速やかに提供すべき情報について紹介する。

なお, 本文に入るに先立ち, 農研機構はじめ農食事業 28040C のコンソーシアムに参画された各研究機関ならびに国をはじめ各行政機関, 横浜植物防疫所の担当の方々には, 年度半ばから急ぎよめることになったこの緊急課題について, 新害虫の被害の大きさに悲嘆に暮れる産地の窮状を一刻も早く解決することになるならばとたいへん精力的かつ献身的な対応をしていただいた。この場をお借りして, 厚く御礼申し上げる。

I 病害虫の基本情報

害虫名

クロバネキノコバエ科の一種
ネギネクロバネキノコバエ (仮称)
(*Bradysia* sp.)

加害植物

ネギ ニンジン

ほかに, 被害発生地域において, ダイコン, ニラ, レタスの根部の加害寄生を確認

1 発生確認の経過

本種の被害発生地域である埼玉県北部から採取したネギおよびニンジン由来の幼虫を埼玉県農業技術研究センターにおいて室内飼育し, 得られた羽化成虫を横浜植物防疫所に送付して同定を依頼したところ, ネギ, ニンジンを加害する種はそれぞれ同じ種であることが明らかになった。

当初, ネギの発生被害のみを確認したときには, 各地でサトイモ, キュウリ, メロン, 花き類, イチゴ等で被害を出しているチバクロバネキノコバエ (別和名: チバクロバネキノコバエ) *Bradysia impatiens* (Johannsen) (シノニム: *B. agrestis*, *B. difformis*) (以下, チバクロ) (笹川, 1989; 茨城県病害虫防除所, 2014) が疑われたが, 比較的地下部となるニンジンの根部領域や根深ねぎの地下部葉鞘における被害や幼虫の多発から詳細な検討が重ねられた。その結果, 本種はチバクロと形態的には

A New Pest: Welsh Onion Root Darkwinged Fungus Gnat (tentative name) (*Bradysia* sp.) Injurious to Welsh Onion in Fall and Winter and Carrot in Spring. By Ryosuke OMATA

(キーワード: ネギ, ニンジン, *Bradysia* sp., 新害虫)